



～全国初！公設リンクワーカーがつなぐ地域共生社会への挑戦～ 「給食のない夏休みにおいしい食事と夏の思い出を！」 市内6団体による10日間のこどもの居場所 初開催

北本市の重層的支援体制整備事業の一環として、4月にオープンしたシェアスペース&キッチン「織月-せんげつ-」にて、市内のこども食堂等6団体が連携し、夏休み中の10日間、毎日食事の提供や学習支援等を行います。

「織月」は「属性や年代を超えた居場所」として整備され、全国で初となる

公設のリンクワーカー（地域と個人をつなぎ社会資源をマッチングさせる人材）が常駐し、困りごとの相談を受けたり、必要な支援やサービスへとつなぐ伴走支援を行っています。



写真データ提供可

「にこにこ夏ごはん」の皆さん(中央がリンクワーカー)

夏休み中のこどもの居場所「にこにこ夏ごはん」初開催！

シェアスペース&キッチン「織月」で、夏休み中のこどもたちの居場所をつくるための特別企画を実施します。市内でこども食堂やこどもの居場所を営む6団体や有志のメンバー、学生ボランティアなどが連携し、日替わりで各団体の特色も活かしながら、昼食の提供や学習支援のほか、夏の思い出作りになるようなイベント等を計10日間開催します。



日時・場所

8月17日(月)～28日(金)

10:00～12:00 学習
12:00～13:30 ランチ・休憩
13:30～15:00 自由時間

※土日除く

場所:シェアスペース&キッチン「織月」北本市西高尾4-198-5

取材可能日時

8月24日(月) 10:00～15:00

ランチで本物の竹を使った流しそうめん会を開催予定！
※この日以外の日程での取材を希望の場合はご相談ください。

8月18日(火)北本市定例記者会見開催後に
織月をご案内するツアーを開催します。ぜひご参加ください。

参加団体

- ・きたもとこども食堂・くりりんカフェ・ひなとま食堂
- ・どんぐりっ子集まれ!!・子ども食堂フィーカ・そらまめ食堂



主催者の皆さんの思い

今回のコラボを企画された主催者の皆さんに、開催への思いをインタビューしました。日ごろから地域のこどもを見守ってきた方々がどんな思いで企画されたのか、また織月という場やリンクワーカーの存在についてお話を伺いました。



リンクワーカー
そらめ食堂代表
松本さん

リンクワーカーの松本です。織月を運営しながらこの場所で仲間とそらめ食堂というこども食堂をやっています。

「夏休みに給食がなく、体重が減ってしまうこどもがいる」そんな話を耳にしたとき、何かしなきゃ！という思いに駆られました。

日ごろから情報交換をしているこども食堂を営む方々に声をかけてみたらみんなが夏休みのこどもたちを同じように心配していたことがわかったんです。

民生委員としてこども食堂の運営に関わっています。学校との連携の中で、こども食堂に繋がりたい家庭があっても日程が合わずに断念することがありました。**10日間の連続開催は声をかけやすく、こども食堂に繋がっていない家庭をつなげられるチャンス**だと思います。



民生委員
茂木さん



主任児童委員
くりりんカフェ代表
小澤さん

主任児童委員の活動のなかで学校から心配なこどもについて情報共有をしていただいています。また、個人として「くりりんカフェ」というこどもの居場所・こども食堂をやっていますが、長期の休み期間は特に心配になります。1つの団体だけだと難しいのですが、**いろんな団体と一緒にだったらまとまった期間開催できるかもしれない…！**と思ったのがきっかけです。

どんぐりっこ集まれ！！の運営に関わっています。
今回コラボするメンバーはコロナ禍のなかでこども食堂を立ち上げたときからのつながりで、活動のなかで困ったことなどを気軽に相談しています。リンクワーカーの松本さんは**支援者にとっても心強い存在**です。



北本社協西部支部
どんぐりっこ集まれ！！
奥山さん

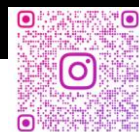


きたもとこども食堂
代表 邨山(むらやま)さん

きたもとこども食堂をやっています。団体同士で協力し合うことで、10日間もの間、場を開き続けることができるのだということがわかりました。**織月という拠点の存在と、リンクワーカーの存在**のどちらかが欠けていても成り立たなかったと思います。

今回のコラボ企画は、かねてからつながり続けていた皆さんが、リンクワーカーと居場所「織月」ができたことで集うことができるようになり、思いが具体化し実現しました。**「織月」は北本市重層的支援体制整備事業をきっかけにつくられたスペースで、シェアスペース、相談支援、チャレンジ出店などの様々な機能を併せ持つ場所です。**

居場所「織月」について



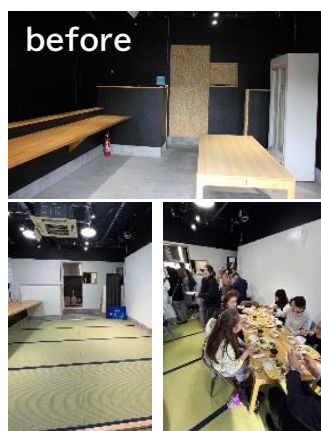
©SENGETSU2026

織月 インスタグラムはこちら

①高齢の方も障がいのある方も若者もこどもも 属性や年代を問わない居場所

- コンセプト** 子育て世帯、高齢者、障がいのある方、福祉関係者、地域の方々が関わり合い、「食と学び」を中心に新たな交流が生まれるあたたかな場所を目指しています。
- 特 色** 全国初の公設リンクワーカーが常駐し、困りごとの相談も受け付けながら解決のための伴走支援を実施しています。(株)SpinNerによる民設民営のシェアスペースですが、整備にふるさと納税型クラウドファンディングを活用しているほか、行政の事業も受託している官民連携の拠点です。
- 織月の由来** 「織月」は月齢約2日目の細い月のことを表し、わずかな時間しかみられない希少で美しい月のことです。月のように優しく地域を照らしてほしいという願いがこめられています。
- 活用方法** こども食堂やこどもの居場所、学習支援、地域の会合、当事者の集まり、チャレンジ出店など多様な利用が可能な場所です。

②ふるさと納税型クラウドファンディング ③広報きたもと4月号「織月」特集



織月はふるさと納税型クラウドファンディングも活用した拠点です。わずか3か月で140万円以上の寄附が集まり、空き店舗がリノベーションされ、地域の誰もが気軽に立ち寄ることのできる明るく温かい居場所へと生まれ変わりました。

織月のオープンを祝したイベントについて広報きたもとで特集記事が掲載されました。出資してくれた方々を招待し、料理が振る舞われながら織月の今後の展望をみんなで話し合い希望に満ちた場となりました。

④居場所づくりやチャレンジ出店など多様な活用事例

オープンを心待ちにしていた団体や利用者が織月を場として活用しつつ、新たに織月で立ち上がった取組も増えています。こども食堂やこどもの居場所の定期的な開催のほか、日ごろ支援を受ける側だった人が「自分も恩返しをしたい！」と一念発起しナポリタンでチャレンジ出店した「ナポリタンの日」や、障がいのある方の当事者の集まり、団体同士のコラボレーションなど、リンクワーカーが繋ぎ役となって、地域の取組や資源を掛け合わせて新たな取組が発生するような仕掛けづくりを行っています。



ナポリタンを振る舞っている様子

リンクワーカーについて



①概要

※社会的処方とは

医療だけではなく地域とのつながりで健康を支える考え方

北本市では「リンクワーカー」という役割をもった人材を民間への委託により配置しています。リンクワーカーとは「社会的処方(※)」と呼ばれる、人と人や、人と社会資源、地域資源とを結びつけながら多様な幸せ(ウェルビーイング)を目指す取組です。

より地域に根差した取組とするべく、北本市のリンクワーカーは以下の4つの特色を持ちます。

- ・行政サービス(フォーマル)と社会資源や機会(インフォーマル)の両面から最適なものにつなぐ
- ・支援につながっていない人を渉外活動しながら把握
- ・地域で活動する人の活動支援や情報発信を行う
- ・属性や世代を超えて交流できる居場所づくり(=織月)

②創設の経緯

重層的支援体制整備事業を進めるなかで、地域の志ある方による支援や場とたくさんつながってきました。制度の狭間に陥ってしまう方や複合的な課題が絡まり合い立ちすくんでしまっている方に対して、行政の公的支援と地域の資源や場との両面から最適なものへとつなぐ役割の必要性を強く感じたことをきっかけに、公設でのリンクワーカーを新たに創設し、民間のノウハウを大いに活かしてもらえるよう、事業委託によるかたちとしました。

③リンクワーカーが社会資源等につないだ事例

ある单身男性が離職後ひきこもりが続き、ライフラインが止まり困っているのを地域の方や民生委員が発見しリンクワーカーにつながりました。リンクワーカーが食糧支援をしながら困りごとを解きほぐすと、自身の状況や困りごとをうまく言葉にして伝えることが苦手で支援につながっておらず、また、生活保護申請への抵抗感から誰にも相談できずにいたことがわかりました。

そしてリンクワーカーが生活保護の申請へとつないだうえで、体調を整えるため医療機関に同行して本人の病状を正しく伝えるための橋渡しを行い、継続的な受診が開始できた結果、少しずつ生活が安定し、現在は就労による収入を得ており、自立した生活に向けて支援を行っています。

④リンクワーカー事業のこれから

行政の支援では制度の狭間にあり支援を受けづらい方や自らSOSを発信することが難しい方に対して、リンクワーカーが働きかけ、必要なサービスや居場所、社会資源等に接続する架け橋を担っています。

地域の資源をより深く知り、顔の見える関係性を構築するための活動を通じて、潜在的な要支援者の情報や地域のニーズを収集することにより、これまでになかった新たな取組を創出する仕掛けづくりを行っています。今回のコラボ企画「にこにこ夏ごはん」はまさに、リンクワーカーが織月を起点として地域資源同士を掛け合わせて実現に至った好事例です。このように、地域資源の情報をもつリンクワーカーが居場所「織月」を営みながら、人と人、人と資源、資源と資源を結び付けていくことで、北本市民にとって「相談したいことができたら、リンクワーカーに話してみよう」と当たり前と思われるような存在にしていきたいと考えています。



リンクワーカー 今年度は2名配置

北本市重層的支援体制整備事業について

①概要

重層的支援体制整備事業とは、8050世帯や育児と介護が重なるダブルケア等複合的な課題や困難、生きづらさを抱えている方に対して、困りごとを紐解きながら解消するために多機関が協働する体制づくりや、属性や年代を問わない居場所をきっかけに地域づくりを広げるなど、地域共生社会の実現を目指す取組です。

北本市は令和4年度から重層的支援体制整備事業に着手し、令和6年度より本格稼働しています。

②これまでの歩み

重層的支援体制整備事業は決して市役所だけが担うものではなく、民間の支援機関、支援団体、地域住民、ひいては全ての市民に開かれた取組です。北本市では地域共生シンポジウムや研修会の開催により、関係機関を巻き込みながら事業内容や今後期待される効果を発信し、重層的に支援を展開するための体制を構築してきました。

複合的な課題を持つ事案の解決に取り組みつつも、北本市ならではの特色ある事業をつくることはできないか模索するなかで着目したのが「リンクワーカー」でした。

重層的支援体制整備事業を通じ、公的な支援機関同士の縦割りな関係性を超えて支援策を導き出す一方で、リンクワーカーを起点に民間ノウハウを活用しながら最適な地域資源に接続するという両面で困りごとの解決を目指すことが、北本市独自の重層的支援の在り方です。

③地域共生社会の実現を目指して行政と地域が協働

重層的支援体制整備事業に取り組むなかでたくさんの思いのある支援機関の方々、こども食堂や地域食堂など思い溢れる担い手の皆さんに出会ってきました。個々の困りごとを解決するのは行政の力だけでは難しい場面がたくさんあります。しかし、地域の力と両輪となって協働することでよりよい方向に進むこともまた、たくさんあります。行政と地域がともに同じ方向を向き協働しながら地域を形作っていくことこそが地域共生社会の実現へとつながっていくものだと考えています。



担当者コメント

夏休みのこどもの居場所特別企画をきっかけに、織月という新たな拠点とリンクワークの立ち上げ、根幹にある重層的支援体制整備事業について紹介させていただきました。夏休み中給食が出ないことへの心配を「10日間こどもの居場所を連続で提供する」試みへと昇華した「にこにこ夏ごはん」の取組にぜひ目を向けていただけたら幸いです。

